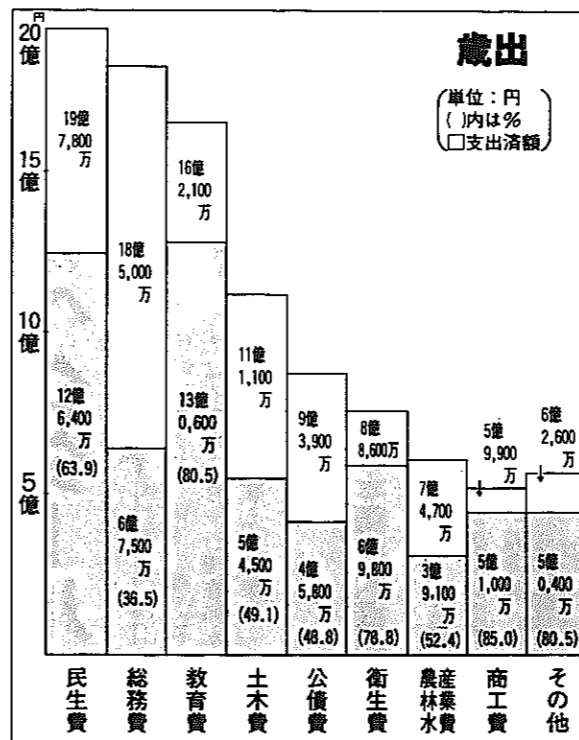
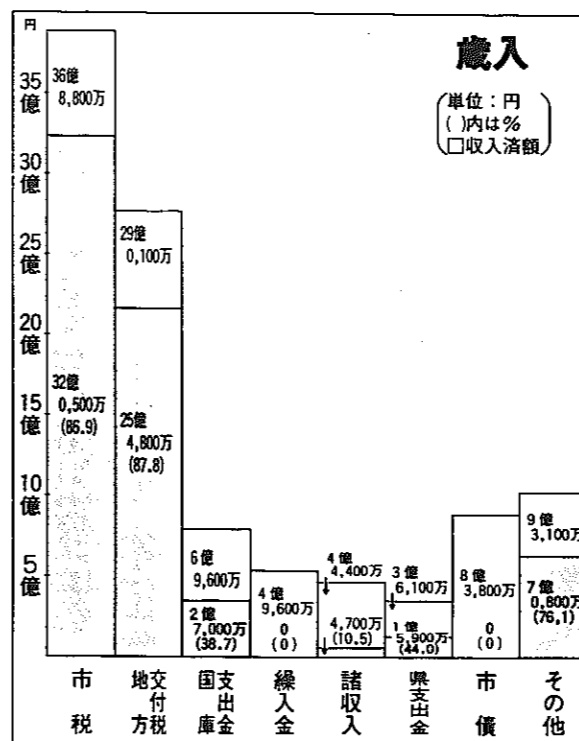


企画調整課広報聴係 ☎373-2111

## 財政健全化に一層の努力

平成4年度12月31日現在財政状況



予算総額は103億5,000万円に上りました。平成4年度の一般会計当初予算は、前年度当初予算に比べて三・九増の百二億三千百万円でスタートしました。その主なものは、今年度から三カ年継続事業として行う「しるね大風と歴史の館」建設事業、白根北中学校体育館・プール建設事業、小林小学校増築事業などです。その後、いろいろな行政需要にこたえるため、四回の補正を行いました。追加補正額は総計一億二千五百六十万円です。これにより、一般会計予算総額は十二月三十一日現在で百三億五千六百六十万円となりました。追加補正した事業のうち主な

ものは、市道の舗装・改良、側溝整備・補修と幹線排水路・市街地側溝の整備です。これは国が景気浮揚対策の一環として行った総合経済対策に基づくもの。その一連の施策の中の臨時地方道整備事業を積極的に活用しました。そのほか産業厚生会館の米館者用駐車場用地取得整備費、学校週五日制対策費、社会福祉計画策定費、新潟県知事選挙費などを追加しました。

市では今後とも長期的な見通しに立って、計画に沿った財政運営に努めるとともに、経費の徹底した節減を図り、財政の健全化を推進。第三次総合計画の着実な進展に向けて努力していきます。市民の皆さんの一層のご理解とご協力をお願いします。

### 特別職報酬の改正 審議会が答申

白根市特別職報酬等審議会(法川善太郎会長・委員十人)が二月四日と九日に、市役所で開かれました。同審議会は、市長など特別職の報酬額改正について審議。同十五日、竹内市長に審議結果を答申しました。答申では、特別職の報酬等について「特別職の報酬等の額は、県内二十市中依然として低い位置にあり、一部の近隣町村をも下回る状況である」とした上で、「財政事情、住民感情等を十分配慮しながら、市民の理解が得られる範囲の改正額」として答申。答申の改正額は左表のとおりで、三月に開かれる定例会議会で提案される予定です。

	現行報酬額	答申報酬額	引き上げ額	改定率
市長	754,000	784,000	30,000	3.98%
助役	579,000	604,000	25,000	4.32%
収入役	519,000	544,000	25,000	4.82%
市議会議長	336,000	354,000	18,000	5.36%
市議会議長	281,000	296,000	15,000	5.34%
議員	260,000	275,000	15,000	5.77%

適用は5年4月1日から

### スキーで仲間づくり

野外活動交歓のつどい

青年教育センターなどが主催する野外活動交歓のつどいが、二月六日から二日間、北魚沼郡守門村の須原スキー場で行われ、四十三人が参加しました。これはスキーやレクリエーションなどを通じて、若者の仲間づくりをしようと毎年行われているもので、受付開始後すぐ満員に。初日は好天に恵まれ、最高のスキー日和。夜の交歓会も盛り上がり、楽しい仲間づくりができた。参加者からは好評。事務局では「この仲間たちが青年スクールなどに参加して、青年活動をより一層盛り上げてくれれば」と期待を寄せています。



### 子育てに熱いエール

戸石家庭教育学級

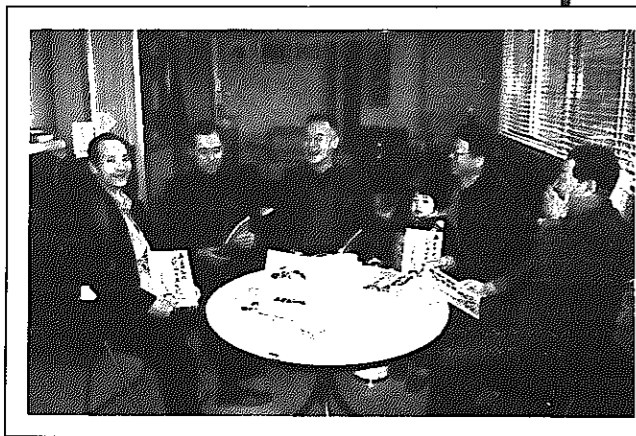
戸石地区の家庭教育学級が一月二十日、戸石小学校で行われ、父母や教師など二十七人が子育ての体験談に耳を傾けました。この学級は学校週五日制に対応して、家庭の教育力を高めようと開かれたものです。体験談を語ってくれたのは、レスリングの原喜彦選手のお母さんの原朋子さんと、教育委員の小田信雄さん。原さんは三人の子供の意志を尊重しながら育てたことや、喜彦さんが五輪選手になるまでの出来事を。小田さんは「子育ては永遠のテーマ。親の心は必ず子供に通じる」と、参加者に熱いエールを送っていました。



### 茨曾根の「あつたてんが」完成

公民館地区

茨曾根地区公民館ではこのほど昔話集「あつたてんがのいばらそね」を地区全世帯に配布。昔いりり端で祖母から聞いた昔話を語り継ぎ、ふるさとを愛し続けてほしいとしています。これは生涯学習活動の一環として、昨年から関根同公民館長らが地区に残る昔話や童歌を収集していたもの。古老のなまりや方言そのままの昔話三十話と十九の歌、新村の故玉木寅蔵さんのかわら版などが豊富な挿絵と共に収録されています。この昔話集は一部五百円。希望者はお早めに茨曾根地区公民館(☎375・2035)へ申し込みください。



### 格安で大にぎわい

中古衣料パーゲン

モノ余りの時代といわれる中、有効利用できるものは大いに活用しよう。二月七日「中古衣料パーゲン」が開かれました。主催したのは障害を持つ人たちのための通所作業施設「おたまじやくしの家」。四回目を迎えるこの催しに、市内外から四千点余りの衣料が寄せられました。値段は一点五十円、三点で百円など、最高でも一千元と格安。子供服やスーツ、背広など、まだ十分に着れるものがほとんどあって、会場は主婦でこった返っていました。このパーゲンの収益金はおたまじやくしの家の運営費に充てられます。

